

二国間交流事業 共同研究報告書

令和4年4月6日

独立行政法人日本学術振興会理事長 殿

[代表者所属機関・部局]
大阪大学・知的基盤総合センター
[職・氏名]
特任助教(常勤)・吉田悦子
[課題番号]
JPJSBP 120193212

1. 事業名 相手国: フランス (振興会対応機関: MEAE-MESRI) との共同研究

2. 研究課題名

(和文) AI時代における知的財産法と競争法の未来-日仏の法と社会を踏まえた比較研究

(英文) The Future of Intellectual Property Law and Competition Law in the AI Era

- A Comparative Socio-Legal Study between France and Japan

3. 共同研究全実施期間 平成31年4月1日 ~ 令和4年3月31日 (3年0ヶ月)

4. 相手国代表者(所属機関・職・氏名【全て英文】)

University Toulouse 1 Capitole・Professor・Mendoza-Caminade Alexandra

5. 委託費総額(返還額を除く)

本事業により執行した委託費総額	1930,000 円
内訳	
1年度目執行経費	980,000 円
2年度目執行経費	950,000 円
3年度目執行経費	0 円

6. 共同研究全実施期間を通じた参加者数(代表者を含む)

日本側参加者等	4名
相手国側参加者等	5名

* 参加者リスト(様式 B1(1))に表示される合計数を転記してください(途中で不参加となった方も含め、全ての期間で参加した通算の参加者数となります)。

7. 派遣・受入実績

	派遣		受入
	相手国	第三国	
1年度目	4	0	5(0)
2年度目	0	0	0(0)
3年度目	0	0	0(0)

* 派遣・受入実績(様式 B1(3))に表示される合計数を転記してください。

派遣: 本委託費を使用した日本側参加者等の相手国及び相手国以外への渡航実績(延べ人数)。

受入: 相手国側参加者等の来日実績(延べ人数)。カッコ内は本委託費で滞在費等を負担した内数。

8. 研究交流実績の概要・成果等

(1)研究交流実績概要(全期間を通じた研究交流の目的・研究交流計画の実施状況等)

本研究では、人工知能(Artificial Intelligence、以下 AI)をめぐる技術を題材に、AI 搭載製品の開発と普及に向けた活動において、得られた成果や情報の活用に対する知的財産法および競争法上の具体的な問題について、法体系として共通点の多いフランスを比較対象として、現行制度の状況や最新の議論を詳細に分析し、有益な視座を得ることを目的とする。研究交流では、発明、デザイン、著作物を主な対象として、トゥールーズ第一大学の研究者と日仏の法的前提状況や交わされている議論を精査し、AI に過度な期待を持たず道具として位置付けること、IT プラットフォームによる独占や寡占を警戒し、分権的経済秩序を志向し、AI という最先端の問題を通じて、発明や著作物とは何か、著作者とは誰か、知的財産法は何のためにあり、それは競争秩序とどのような関係にあるかなど、真に基本的な問題について、現地セミナーおよびオンラインセミナーを通して検討した。

(2)学術的価値(本研究交流により得られた新たな知見や概念の展開等、学術的成果)

フランスと日本は、共に大陸法系の法体系を有していることから、次のような知見や学術的成果を得た。著作権法においては、日仏(欧)共通の課題であるテキストマイニングやデータマイニングの対象となるデータを大量に集めるための著作権の制限について、特許法では、AI 関連発明の保護と人間の関与について、競争法では、機械学習による価格設定アルゴリズムの競争法上の問題、EU 機能条約(TFEU)102条の市場の支配的地位の濫用について新たな知見を得た。

(3)相手国との交流(両国の研究者が協力して学術交流することによって得られた成果)

1. 2019 年度

1) Sakura Program 1st Workshop (5 月 15 日大阪大学/ 16 日一橋大学)

フランスチームが来日し、共同研究に関するディスカッションおよびセミナーを開催した。セミナーでは、データ資源の共有化に向けたルール作り、自動運転などのモビリティ分野や医療分野の戦略、AI 人材育成の必要性や AI 倫理規定についての取り組みをテーマとした。(セミナー参加者 20 名)

日本側参加者: 吉田悦子、長塚真琴、青木大也、杉崎 弘

フランス側参加者: Mendoza-Caminade Alexandra, Jacques Larrieu, Guillaume Guegan, Diogo Costa Cunha
Kamilia Bentaieb

2) Workshop on "Intellectual Property and Artificial Intelligence -Some aspect of Japanese Regulation" (11 月 30 日-12 月 4 日、トゥールーズ第 1 大学)

日本チームが渡仏し、共同研究に関するディスカッションおよびセミナーを開催した。セミナーでは、日本の 2018 年著作権法改正 30 条の 4 の解釈、AI 生成物の著作権保護、AI 関連発明の特許要件をテーマとした。(セミナー参加者 30 名)

日本側参加者: 吉田悦子、長塚真琴、青木大也、杉崎 弘

フランス側参加者: Mendoza-Caminade Alexandra, Jacques Larrieu, Guillaume Guegan, Diogo Costa Cunha
Kamilia Bentaieb

2. 2020 年度

Covid-19 の影響で渡航不可となったため、メールやオンラインを活用した意見交換およびセミナーを開催した。

1) Artificial Intelligence and Competition Law (11 月 5 日)

オンラインセミナーでは、フランスチームは AI をめぐる競争法や医療技術の諸問題として、価格設定アルゴリズムの競争法上の問題 や予防医学における AI の倫理的使用について、日本チームは AI と法のあり方や日本の競争法の仕組みの紹介、AI が関連する発明者認定をテーマとした。

日本側参加者: 吉田悦子、長塚真琴、杉崎 弘

フランス側参加者: Mendoza-Caminade Alexandra, Jacques Larrieu, Guillaume Guegan, Diogo Costa Cunha

Kamilia Bentaieb

3. 2021 年度

Covid-19 の影響で渡航不可となったため、メールやオンラインを活用した意見交換およびシンポジウムを開催した。

1) L'Entreprise et l'IA les Réponses du Droit(11 月 4-5 日)

オンラインシンポジウムでは、日本の機械学習の権利制限規定（著作権法 30 条の 4）、AI 生成物の保護について、AI 関連発明の保護と人間の関与について、EU 機能条約 (TFEU) 102 条の市場の支配的地位の濫用をテーマとした。

日本側参加者: 吉田悦子、長塚真琴、青木大也、杉崎 弘

フランス側参加者: Mendoza-Caminade Alexandra, Jacques Larrieu, Guillaume Guegan, Diogo Costa Cunha

Kamilia Bentaieb

(4)社会的貢献(社会の基盤となる文化の継承と発展、社会生活の質の改善、現代的諸問題の克服と解決に資する等の社会的貢献はどのようにあったか)

共同研究をとおして、お互いの問題意識を共有し、基礎的論点から議論を積み重ねたうえで、比較法研究に展開したことは、自国の新たな問題点を再発見する契機となり、多様化する現代的諸問題の議論を加速させた。さらに、相手国事情に関する母語の情報発信を行うことは、国際的に直面する具体的な課題の解決に資するものとなった。

(5)若手研究者養成への貢献(若手研究者養成への取り組み、成果)

若手研究者養成の一環として、杉崎 弘氏（博士課程学生）をトゥルーズ第一大学に派遣し、研究交流を行った（2019 年 11 月 1 日～12 月 28 日）。杉崎氏は本事業での研究活動を通じて、論文 2 報、学会発表 4 件(国内 2 件、国際 2 件)を報告している。

(6)将来発展可能性(本研究交流事業を実施したことにより、今後どのような発展の可能性が認められるか)

日仏の法制度や判例についての比較法的考察により、知的財産として保護すべき問題とデータ保護に関する問題、欧州における哲学的な問いについて理解が深まったことにより、新たなプロジェクトとして継続する契機となった。一方で、コロナ禍により現地施設の視察をはじめとする開発者へのヒアリングなど、断念せざるを得なかった点は、今後の持続的な活動において実施できる可能性がある。

(7)その他(上記(2)～(6)以外に得られた成果があれば記述してください)

例: 大学間協定の締結、他事業への展開、受賞、産業財産権の出願・取得など

フランス系出版社より本研究交流事業の成果を書籍として出版することになった。

《L'entreprise et l'intelligence artificielle》, ouvrage collectif sous la direction d'Alexandra Mendoza-Caminade, éd. IFR Lextenso, 2022, forthcoming.